

# 令和6年度 評価基準

江戸川区立第五葛西小学校

教科	国語	学年	第3学年
----	----	----	------

## 上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4月	よく聞いて、じこしようかい 1時間(話・聞①) ○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話することができる。(知・技(1)イ) ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ)	1	1 扉の詩を読み、目次やP5「国語の学びを見わたそう」を見て、国語学習の見通しをもつとともに、学習の進め方を確かめる。 2 P13を読み、3年生の国語学習での目標や楽しいことを書く。 3 P14-15を読んで活動の流れを確かめ、自分の「すきなもの」を一つ考えて、前の人の話を繰り返しながら、順番に紹介し合う。 4 友達の好きなものを聞いた感想を伝え合う。	【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話し手が伝えたいことの中心を捉えている。(A(1)エ) 【態】積極的に相手を見て話したり聞いたりし、学習課題に沿って自己紹介をしようとしている。
4月	どきん 1時間(読①) ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ) ■詩を楽しんで音読する。	1	1 「どきん」を読み、詩の特徴を確認する。 2 言葉の調子を楽しみながら、音読の練習をする。 ・行末の擬声語や擬態語に注意する。 3 音読を聞き合い、読み方を工夫したところを伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・音読をして感じた楽しさをノートに書く。 ・「この本、読もう」で、詩集を読み広げることに関心をもつ。	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】積極的に文章全体の構成や内容の大体を意識し、学習課題に沿って楽しんで詩を音読しようとしている。
4月	わたしのさいこうの一日 つづけてみよう 1時間(書①) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ■日記を書く。	1	1 「さいこうの一日」の日記を書くことを確認し、したいことや起こってほしいことを書き出す。 2 「さいこうの一日」の日記を書く。 3 書いた日記を読み合い、感想を伝え合う。 4 P20「つづけてみよう」を読み、年間を通した継続的な活動に取り組む意欲をもち、ノートの書き方について学ぶ。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っている。(1)オ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】経験したことや想像したことなどから書くことを選んで選び、学習課題に沿って日記を書こうとしている。
4月	登場人物の気持ちをたしかめ、そうぞうしたことをつたえ合おう 春風をたどって 8時間(読⑧) ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ■読んで想像したことを伝え合う。 ☆自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすることを育てる題材(道徳)	1  2~6  7~8	1 学習の見通しをもつ。 ・P21を見て、どのような物語なのかを想像する。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひよ」 2 四つの場面での「ルウ」の行動を確かめながら音読する。 3 「ルウ」の気持ちに分かる言葉を見つけ、ノートに書く。 ・P32「言葉に着目しよう」を参考にして、「ルウ」の気持ちに分かる言葉をまとめる。 4 「ルウ」の気持ちの変化を具体的に想像し、ノートにまとめる。  5 物語の続きを想像し、ノートに書く。 6 友達の書いたものを読み、感想を伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ) ・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。
4月	図書館たんていだん 1時間(知・技①) ◎読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(1)イ)	1	1 P35の写真を参考にして、学校図書館の工夫を考える。 2 P36を読み、図書館では内容ごとに本が分類され並べられていることを知る。	【知・技】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ) 【態】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに積極的に取り組んでいる。

# 令和6年度 評価基準

江戸川区立第五葛西小学校

	<p>る。(知・技(3)オ)  <b>■</b>図書館の地図を作り、本を探す。  <b>☆</b>図書館の配架を知る活動(図書館活用)</p>		<p>3 学校図書館に行き、本の分類を理解する。          ・グループで学校図書館の地図を作り、棚ごとにどのような種類の本があるのかを調べる。          ・読みたい本や必要な本を、紹介コーナーや棚の番号などで探す。          ・読書記録のつけ方を知る。</p>	<p>待つことに役立つことを積極的に知り、学習課題に沿って学校図書館の工夫について調べようとしている。</p>
4月	<p><b>国語辞典を使おう</b>          2時間(知・技②)          ◎辞書の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)          ☆考えをまとめる活動などの漢字の確かめ(総合的な学習の時間など)</p>	1~2	<p>1 国語辞典を使うときについて考える。          ・「問いをもとう」を基に、どのようなときに国語辞典を使うのかを考える。</p> <p>2 国語辞典の見方を理解する。          ・国語辞典を開いたり、P38の二次元コードを参考にしたりして、「国語辞典のれい」の内容を</p> <p>3 見出し語の見つけ方を理解する。          ・国語辞典では、どのような決まりで言葉が示されているかを知る。</p> <p>4 言葉の意味を調べる。          ・P40の設問に取り組み、示されているいろいろな語を辞書で引く。          ・調べて分かった意味をノートにまとめる。          ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。</p>	<p>【知・技】辞書の使い方を理解し使っている。(2)イ)          【態】進んで辞書の使い方を理解し、学習課題に沿って国語辞典を使おうとしている。</p>
4月	<p><b>漢字の広場①</b>          2時間(書②)          ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)          ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)  <b>■</b>絵を見て想像したことを基に文を書く。</p>	1~2	<p>1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。</p> <p>2 P41を見て、動物や人の様子や、行動について説明する。</p> <p>3 提示されている漢字を使って、動物園の様子を文に書く。</p> <p>4 書いた文を友達と読み合う。</p>	<p>【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)          【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)          【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。</p>
4月	<p><b>春の暮らし</b>          2時間(書②)          ◎語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。</p>	1 2	<p>1 「みどり」を読み、生活の中で春らしさを感じスーレ<sup>スーレ</sup><sub>スーレ</sub>つけた春を感じたものについて書</p> <p>2 身の回りで見つけた春を感じたものについて書</p> <p>3 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流す</p>	<p>【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)          【思・判・表】「書くこと」におい</p>
5月	<p><b>知りたいことを考えながら聞き、しつもんしよう</b>  <b>もっと知りたい、友だちのこと</b>  <b>【コラム】きちんとつたえるために</b>          6時間(話・聞⑥)          ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話することができる。(知・技(1)イ)          ◎必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと<sup>こと</sup>の中心を捉え、自分の考えをもつことができる。(思・判・表A(1)エ)          ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)  <b>■</b>知らせたいことを話したり、知りたいことを質問したりする。          ☆友達の新たな一面やよさを知る活動(特別活動、道徳)</p>	1 2 3 4~6	<p>1 学習の見通しをもつ。          ・友達のことを知るために、グループになって話を聞き合う方法を知る。          ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 友達に知らせたいことを決めて、ノートに書く。          ・友達に知らせたいことを簡条書きでノートに</p> <p>3 話の聞き方や質問のしかたについて確かめる。          ・P45「しつものしゅるい」を参考にして、質問の種類や話の聞き方を整理する。</p> <p>4 友達の話を聞いて、質問する。          ・P46の二次元コードから、聞き方や質問のしかたのよいところを考える。          ・聞き手は、話の中心に気をつけて聞き、自分が特に知りたいこと<sup>こと</sup>をはっきりさせ、質問を考える。          ・大事なことを落とさないように質問したり、答えたりする。その際、P48「きちんとつたえるために」を参考にしてもよい</p> <p>5 どのような質問で話が広がったり、友達のことがよく分かったりしたかを伝え合う。</p> <p>6 学習を振り返る。          ・「ふりかえろう」で、単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。その際、P148「インタビュー」を参考にしてもよい。</p>	<p>【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ)          【思・判・表】          ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んで話している。(A(1)ア)          ・「話すこと・聞くこと」において、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと<sup>こと</sup>の中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ)          【態】粘り強く話し手が伝えたいこと<sup>こと</sup>や自分が聞きたいこと<sup>こと</sup>の中心を捉え、学習の見通しをもって話したり、質問したりしようとしている。</p>
5月	<p><b>漢字の音と訓</b>          2時間(知・技②)          ◎第3学年までに配当されている漢字<sup>漢字</sup>の音と訓<sup>音と訓</sup>を確認する。</p>	1~2	<p>1 漢字の「音」と「訓」の特徴を理解する。          ・P150「これまでに習った漢字」を使うなどして、既習の漢字の音と訓を確認する。</p>	<p>【知・技】第3学年までに配当されている漢字<sup>漢字</sup>を読んでいる。(1)エ)          【態】進んで第3学年までに配当さ</p>



# 令和6年度 評価基準

江戸川区立第五葛西小学校

	<p>まいごのかぎ 6時間 (読⑥) ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ■物語を読んで、好きな場面について話し合う。</p>	<p>1 2~4 5 6</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・P71を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもと」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「まいごのかぎ」を場面に分ける。 ・場所や出来事に気をつけて読み、場面分ける。 ・各場面での出来事や、そのときの「りいこ」 3 物語の最初と最後で「りいこ」にどのような変化があったのかを考える。 ・「りいこ」の言動を表す言葉に着目して、不思議な出来事に対する「りいこ」の考え方や気持ちをまとめる。 4 好きな場面とその理由をノートに書く。 ・「りいこ」の変化との関わりを考えながら、ノートにまとめる。 5 好きな場面を友達と伝え合い、自分の考えとの共通点や相違点を話し合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。</p>	<p>【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】登場人物の気持ちの変化について、進んで場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って物語の好きな場面について話し合おうとしている。</p>
<p>6月 俳句を楽しもう 1時間 (知・技①) ◎易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ■俳句を音読する。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材 (道徳) ☆五音と七音を組み合わせた詩などを採る活動 (図書館活用)</p>	<p>1</p>	<p>1 俳句の決まりを知る。 ・俳句は、「5・7・5」の17音で作られていることや季語があることを確認する。 2 俳句を声に出して読む。 ・どこで区切るかを考えたり、音のリズムを確かめたりして、言葉の響きや調子を楽しむ。 ・P92の二次元コードから音声を聞くのもよい。 3 気に入った俳句を音読したり暗唱したりする。 4 P93を読み、身の回りの五音と七音を組み合わせた詩や歌を探る。 5 探した詩や歌を友達と見せ合う。</p>	<p>【知・技】易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って俳句を音読しようとしている。</p>	
<p>6月 こそあど言葉を使いこなそう 2時間 (知・技②) ◎指示する語句の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ■本などから調べたことを書き留め、引用して文章を書く。</p>	<p>1~2</p>	<p>1 「こそあど言葉」を知る。 ・「問いをもと」を基に、生活の中でうまく伝わらなかつたことを想起する。 ・「こそあど言葉」には、相手との距離や目的などによって、使い分けがあることを理解する。 2 「こそあど言葉」を使うことで、文をより簡潔に表現できるようになることを理解する。 3 P95の設問2・3に取り組み、「こそあど言葉」が指す語句を考えたり、短い文章を作ったりする。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかした場面を考える。</p>	<p>【知・技】指示する語句の役割について理解している。(1)カ) 【態】積極的に指示する語句の役割について理解し、学習課題に沿って使おうとしている。</p>	
<p>6月 【じょうほう】引用するとき 3時間 (知・技①、書②) ◎引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■本などから調べたことを書き留め、引用して文章を書く。</p>	<p>1~3</p>	<p>1 「引用」を知る。 ・P94を参考に、本などから調べたことを報告する。 2 「引用」の決まりを理解する。 ・文章の中で引用する際の決まりを確かめる。 ・出典の示し方を理解し、それが奥付にまとめられていることを知る。 3 P56「こまを楽しむ」から引用して、興味をもったこまとその遊び方を紹介する文章を書き、友達と読み合う。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかした場面を考える。</p>	<p>【知・技】引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。(2)イ) 【思・判・表】書くことにおいて、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に引用のしかたや出典の示し方を理解し使い、学習課題に沿って本などから調べたことを引用して文章を書こうとしている。</p>	
<p>7月 つたえたいことをはっきりさせて、ほうこくする文章を書こう 【コラム】符号など 10時間 (書⑩) ◎相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。(知・技(1)ウ) ○段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■調べたことを報告する文章を書く。 ☆調べたいことを決めて、調査を行い、報告する文章にまとめる活動 (社会、総合的な学習の時間) ☆調べたいことについての本を探る活動</p>	<p>1~2 3~6</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・大人になつたらしたい仕事を話し合い、そこにはどのような工夫があるかを想像する。 ・「問いをもと」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 身の回りにある仕事の中から、調べてみたい仕事を選ぶ。 3 仕事について調べ、伝えることを選ぶ。 ・興味のある仕事について、本を読んだり、見学をしたり、インタビューをしたりして調べる。 ・調べて分かったことはメモをする。 ・P99「つたえることをえらぶときは」やP100「土川さんのメモ」を参考にすると、特に伝えたいことは何かを考え、読み手のことを意識して伝えることを選ぶ。 4 報告文の組み立てを考える。 ・P100を参考に、伝えたいことを内容のまとまりに分けて整理する。</p>	<p>【知・技】改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。(1)ウ) ・段落の役割について理解している。(1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習の見直しをもって調べたことを報告する文章を書こうとしている。</p>	

# 令和6年度 評価基準

江戸川区立第五葛西小学校

	<p>（図書館活用） ☆見つけた工夫の撮影（ICT活用）</p>	7~9  10	<p>5 報告文を書く。 ・P101の文章や二次元コードを参考にし、気をつけることを確認してから書き始める。 ・句読点などの使い方などにも注意して書く。その際、P103「符号など」を参考にするとよい。</p> <p>6 報告文を友達と読み合い、感想を伝え合う。 ・報告文の書き方や印象に残ったことなどについて伝え合う。</p> <p>7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	
7月	<p>夏のくらし 2時間（書②） ◎語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）</p>	1  2	<p>1 「はなび」を読み、生活の中で夏らしさを感じスーレを上げ、身の回りで見つけた夏を感じたものについて、ノートに書く。</p> <p>2 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流す</p>	<p>【知・技】語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことな</p>
7月	<p>本は友だち 本で知ったことをクイズにしよう 鳥になったきょうりゅうの話 5時間（読⑤） ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ■図鑑や科学読み物を読んで、クイズを出し合う。 ☆本を選んで読む活動（図書館活用）</p>	1  2  3~5	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・本から新しい知識を得た経験を想起する。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 本の読み方について考える。 ・どんな本を、どのように読んでいるかを友達と話し合う。 ・P160を見るなどして、索引の使い方を理解する。</p> <p>3 P108を参考に、図鑑や科学読み物などの本の種類について知る。</p> <p>4 「鳥になったきょうりゅうの話」を読み、初めて知ったことを伝え合う。</p> <p>5 本を選んで読み、クイズ大会を開く。 ・「この本、読もう」などを参考にして本を選んで読む。 ・驚いたことや友達が知らないと思うことなどからクイズを考え、友達と出し合う。</p> <p>6 学習を振り返る。 ・「読書に親しむために」で、本の読み方を押さえる。</p>	<p>【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。（(3)オ） 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。（C(1)カ） 【態】進んで幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って本で知ったことをクイズにしようとしている。</p>
9月	<p>わたしと小鳥とすずと 夕日がせなかをおしてくる 2時間（読②） ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■詩を読んで、思ったことや感じたことを話し合う。</p>	1~2	<p>1 二つの詩を音読する。 ・連ごとに様子を思い浮かべながら音読する。</p> <p>2 「わたしと小鳥とすずと」を読み、どうして「わたし」は「みんなちがって、みんない。」と言っているのかを考え、話し合う。</p> <p>3 「夕日がせなかをおしてくる」を読み、誰が、どのように「さよなら」を言っているのかを考え、話し合う。</p> <p>4 連と連の関係を考えながら二つの詩を読み、気づいたことや考えたことを話し合う。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。</p>	<p>【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を読んで思ったことや感じたことを話し合おうとしている。</p>
9月	<p>こんな係がクラスにほしい 3時間（話・聞③） ◎考えとそれを支える理由や事例について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ） ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりすることができる。（思・判・表A(1)ア） ■グループで話し合い、考えを整理してまとめる。 ☆係活動における話し合い（特別活動）</p>	1~2  3	<p>1 クラスの係活動を振り返り、新しく作りたい係を考える。 ・思いついた係や仕事を付箋に書き出す。</p> <p>2 グループで話し合い、考えを整理してまとめる。 ・理由と目的を出し合い、質問するなどして考えを広げる。 ・目的や仕事内容に分けて付箋に書き、話し合う。</p> <p>3 グループで話し合ったことを発表する。 ・それぞれのグループの発表を聞いて、感想を伝え合う。</p> <p>4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【知・技】考えとそれを支える理由や事例について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりしている。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。（A(1)オ） 【態】進んで互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、学習の見直しをもってグループで話し合い、考えを整理してまとめる。</p>
9月	<p>ポスターを読もう 2時間（読②） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ○比較や分類のしかたを理解使うことができる。（知・技(1)イ）</p>	1	<p>1 身の回りには、どのようなポスターがあるのかを想起する。</p> <p>2 P124「ポスターのれい」を見て、工夫しているところを話し合う。 ・「キャッチコピー」について、P160「学習に用いる言葉」で確認するとよい。</p>	<p>【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。（(2)イ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。（C(1)ウ） ・「読むこと」において、文章を</p>

